

PCB 廃棄物の処理期限が迫っています

PCB 廃棄物は定められた期限までに処分しなければなりません。
早めに適正な処理が必要です。

PCB の用途と判別方法

PCB はトランス(変圧器)など電気機器の絶縁油が代表的ですが、他にも熱媒油や潤滑油、可塑剤、塗料、インキなどに使用されていました。用途とは別に非意図的に混入した微量 PCB 含有製品も多数存在します。

PCB の有無を判別する方法は、機器に取付けられた銘板を確認する事で判別できますが、平成 2 年頃までに製造された電気機器には、微量 PCB 汚染の可能性があり、試料採取して PCB 濃度を測定し汚染の有無を判別する必要があります。



PCB 廃棄物の分類

PCB 廃棄物は、濃度により高濃度 PCB 廃棄物と低濃度 PCB 廃棄物に分類されます。高濃度 PCB 廃棄物は PCB 濃度 0.5%(=5000ppm)を超えるもの、低濃度 PCB 廃棄物は PCB 濃度 0.5ppm を超え 0.5%以下のものです。0.5ppm 以下は一般の廃棄物となります。

媒体によっては上記分類に当てはまらないものがあります。詳しくは弊社までお問い合わせください。

PCB 調査は弊社へお任せください

PCB 廃棄物は多種多様で、廃棄物の種類、PCB 濃度、処分方法などによって調査方法も異なります。弊社では、電気機器からの絶縁油採取及び分析はもちろん、電気機器内部の素子や電気機器外装の拭取り試験、電気機器以外の PCB 汚染物、PCB 含有の不明油不明物、PCB 汚染物の採取、分析の実績は調査数、調査種類共に非常に豊富です。中間貯蔵・環境安全事業(JESCO)の業務も請け負っており、PCB 調査において非常に高い信頼をいただいております。PCB 廃棄物の処分に関して、適切な調査をご提案、実施させていただきます。基準値や調査方法、PCB 廃棄物の運搬や処理についてもお気軽にお問い合わせください。

PCB は化学名を Poly Chlorinated Biphenyl (ポリ塩化ビフェニル) といいます。PCB という『カネミ油症事件』が発端となり、その有害性が有名になりました。水に溶けにくい、熱に強く不燃性で、電気絶縁性が高いなど、化学的に非常に安定な性質を持つことから、かつては電気機器などに利用されてきました。PCB は脂肪に溶けやすく、慢性的な摂取により体内に蓄積し、色素沈着による塩素ニキビや爪の変形、まぶたや関節の腫れなどが中毒症状として確認されています。こういった背景から、昭和 47 年に PCB 製造は中止され、平成 13 年に国際的な POPs 条約により、低濃度 PCB 廃棄物の処分期限(平成 39 年)に向け、早期処理に動いています。



絶縁油の採取状況

分析のご相談、ご用命は

株式会社環境総合リサーチは株式会社建設技術研究所 (CTI) グループの一員です。



株式会社
環境総合リサーチ
Environmental Research & Solutions Co., Ltd.

e-mail : contact@ctiers.co.jp URL : http://www.ctiers.co.jp/

本社・けいはんな事業所 : 〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台二丁目 3 番 9
Tel.0774-41-0200 Fax.0774-95-6510
中部事業所 : 〒444-0012 愛知県岡崎市栄町 4 丁目 1 番地
Tel.0564-21-0062 Fax.0564-65-5277
東京事業所 : 〒135-0016 東京都江東区東陽 6 丁目 5-6
Tel.03-6666-0570 Fax.03-6666-0571